






総合型地域スポーツクラブ 訪問日記

クラブ名	美和スポーツクラブ 美川スポーツクラブまめな会	訪問日	7月 1日	訪問者	近藤 優子
訪問詳細	<p>岩国市北部に位置する美和・美川地区。本日は美和スポーツクラブの訪問の為、美和公民館へお邪魔しました。</p> <p>事務室奥に通されると、そこには美川スポーツクラブまめな会の花木さんいらっしゃいました。急遽美川スポーツクラブの活動状況も一緒にお聞きさせて頂くことになり、美和スポーツクラブの藤岡さん・白石さんも含め4名で現在の活動、総合型クラブへの考え方など、さまざまな意見が飛び交い充実した時間が流れました。どちらのクラブも課題として、人口減少による会員数低下が挙げられました。</p> <p>現在、美和・美川・本郷の3地区で合同の水泳教室やスキー教室を開催しています。この活動をさらに発展させ、岩国市中心部からも参加してもらえるよう魅力的な教室の開催を目指し活動していけたらという話となりました。</p> <p>今回のクラブ訪問ではクラブ間の繋がりの重要性を再認識する機会となりました。</p>		 		

クラブ名	いがみ倶楽部	訪問日	9月 1日	訪問者	玉城 克馬
訪問詳細	<p>今回、私が伺ったのは長門市油谷伊上にあります「いがみ倶楽部」です。同クラブは旧伊上小学校をクラブハウスとして活用しています。今回はクラブマネジャーの廣田さんにお話を伺う事が出来ました。クラブの主な活動は、健康体操教室やソフトジム、カラオケや書道といった高齢者を対象にしたプログラムを実施しています。会員数は100名弱、運営委員は約12名で構成されており、月に1回の運営委員会を実施して、クラブのイベントなどについて会議を実施しているそうです。10月には地域住民を対象にした「ふれあい運動会」を計画中だそうです。まだまだ小さなクラブですが、これからも地道な活動を続けていぎながら、伊上地区のコミュニティ形成の中心となるクラブになってほしいですね。</p>		 		



☆レッツ！オリ・パラ☆

オリンピックの象徴である聖火。古代ギリシャ人にとって火は神聖なものであり、古代オリンピックの開催中は神殿の祭壇に火を灯し、神を称えていたそうです。1928年のアムステルダム大会のスタジアムに塔が設計され、そこに火を灯すアイデアが採用され現在のよう聖火が誕生したと言われています。

聖火リレーが始まったのは、1936年のベルリン大会からで、リレーをすることで古代と現代とをオリンピックの火で結ぶという思案が込められていたそうです。聖火リレーの儀式には古代にも行われていた歴史的な意味、リレーを通じて国を越えて協力する教育的なメッセージ、芸術的なアピール、宗教的な神聖さの4つの意味があると言われています。

近年では、古代オリンピックの地であるギリシャのヘラ神殿の前で太陽光線から金属製の凹面鏡で火をおこし採火され、聖火ランナーによって開催地の主競技場の聖火台まで運ばれます。かつては、最終ランナーが階段などで聖火台へ向かって走り、トーチから聖火台に火を移すことが一般的でしたが、近年は様々な仕掛けがされています。東京オリンピック・パラリンピックではどのような仕掛けがあり、最終ランナーは誰が務めるのか、とても楽しみです！

2020年
東京オリンピックまで
2150日
※平成26年9月4日現在